

2023年1月1日（日）「礼拝へ向かう心」

詩編 15 編

- 1 賛歌。ダビデの詩。主よ、誰があなたの幕屋にとどまり、聖なる山に宿ることができるのでしょうか。
- 2 それは、全き道を歩み、義を行い、心の中で真実を語る者。
- 3 舌で人を傷つけず、友に災いをもたらず、隣人をそしることもない。
- 4 彼は主の目に蔑まれる者を退け、主を畏れる者を尊ぶ。不利益な誓いでも翻しはしない。
- 5 利息を取って金を貸さず、賄賂を取って罪なき人を苦しめない。これを行う人はとこしえに揺らぐことがない。

新年あけましておめでとうございます。今年はちょうど日曜日が元旦に当たり、まさに2023年の第一日目を主日礼拝で始められる幸いな年明けとなりました。これから歩いて行く一年はどのような日々になるのでしょうか。私たちはこの世を力強く歩み抜くために、自分の内に揺るがぬ土台を持ってはなりません。主イエスは岩の上に家を建てるよう、すなわち、この世の波風にびくともしない土台を築いて生きるよう教え給いました（マタイ7:24-29）。万物を創られた主なる神様を信じ、どのような状況下にあっても主に信頼し、キリスト者としての忍耐と品性を養い続けたい。そのように生きられるよう導いてくださるのは聖霊であります。

年始の礼拝では詩編から説教させていただいておりますが、今年のご一緒に15編の御言葉に耳を傾けましょう。この詩編は、礼拝するため神殿に足を運ぶ人々（巡礼者）の姿を描いています。元旦礼拝を一つの「宮詣」と考えますと、本編の巡礼者たちと、この礼拝に集う私たちの姿とが重なって見えてくるでしょう。ここでは、神殿を訪れた礼拝者と彼らを迎える祭司とのやりとりのイメージがあるようです。

賛歌。ダビデの詩。主よ、誰があなたの幕屋にとどまり、聖なる山に宿ることができるのでしょうか。（15:1）

これは巡礼者からの問いかけであり、聖なる場所に入る資格について問うているところです。敬虔な旧約イスラエルの民は、礼拝に参加できることを当たり前とは思っていませんでした。自分にもそれが許されているだろうかと自問自答しながら神殿に赴いたのです。「幕屋」とは神殿を指し、「聖なる山」は聖所を比喩的に表しているのでしょう。この問いに対して、神殿で彼らを迎える祭司が答えます。

それは、全き道を歩み、義を行い、心の中で真実を語る者。舌で人を傷つけず、友に災いをもたらず、隣人をそしることもない。彼は主の目に蔑まれる者を退け、主を畏れる者を尊ぶ。不利益な誓いでも翻しはしない。利息を取って金を貸さず、賄賂を取って罪なき人を苦しめない。これを行う人はとこしえに揺らぐことがない。（15:2-5）

ここには礼拝者が持つべき資質が並べられています。求められている道德性は極めて高い。一つずつ見てまいりましょう。

① 全き道を歩み

ここで使われている「全き」(תָּמִים/ターミーム)ということばには「完全」「すべて」「全部」「健全」などの意味があり、神との関係、人との関係における誠実さを表しています。神を畏れて生きることは、人との関係における小さな約束事を守るところにまで通じてくる。

② 義を行い

「義」(צְדָקָה/ツェデク)は「正義」「正しさ」「義」を意味する頻出単語。神との関係の正しさ、悪から離れた生き方を表します。それでは、避けるべき悪とは何か。後で具体的に示されてまいります。

③ 心の中で真実を語る者

「真実」(אֱמֶת/エメス)は「確固とした」「誠実」「真実」などを意味する頻出単語です。ここで添えられている「心の中で」という言葉は胸に突き刺さるものがあります。表向きには嘘なく生きることはできても、心の内側には多くの汚いものがある。まず心が聖められなければならない。それが外に向かって言葉として現れるからです。

以上三つのあり方がより具体化されていくのがここからです。まず言葉による罪の戒めが三つ出てきます。

① 舌で人を傷つけず

「傷つける」(לָרַג/ラーガル)は「無遠慮に噂話をする」「中傷する」「歩き回る」などという意味。言葉というものは放たれるとどこまでも歩き始める傾向があるので、何を言うべきで言うべきでないかはよく吟味しなくてはなりません。自分がこれを喋ることで傷つく人はいないかということに常に心を配る必要があります。

② 友に災いをもたらさず

「災い」と訳された言葉は「悪」を意味する「רָעָה/ラー」であり、「同意しがたい」「悪意ある」などとも訳せます。「友」とは自分の人生の宝であり、失いたくない存在です。その友に対する悪意ある言行は避けなくてはなりません。

③ 隣人をそしることもない

「そしる」(הִלְכִיד/ヘルパー)という単語は「非難」「軽蔑」「嘲り」という意味であり、ここでは「隣人」に対する態度が戒められています。私たちにとっての「隣人」とは誰で

しょうか。主イエスの教えでは、自分を必要としてくれているすべての人がそれに当たります。彼らを言葉でもって蔑むことがないようにとされている。

以上、言葉による罪の戒めでした。次に並べられている二つは、「私たちが付き合うべき人とはどのような人であるか」という問題です。

① 主の目に蔑まれる者を退け

これは一見、神が一方的に人を退けるということが言われているようですが、内実はそうではありません。むしろ、神を畏れず、罪を悔い改めず、高ぶりを捨てない人のことを言っているでしょう。人間の側が神を捨て、神との関係を断ち切る。むしろ、神を畏れる人と仲良くし、その人から学びなさいということが言われているようです。良きクリスチャンの友を持つことは重要であります。

② 主を畏れる者を尊ぶ

先の教えと通ずるところですが、主を畏れて生きる人を間近で見るとは、私たちの生き方に大きな影響を与えます。どのような人と付き合い合っているかを問い直す必要があるかもしれません。少なからず人格的な影響を受けているからです。日曜日に信仰の友と出会い、共に御言葉を聞き、その奉仕に対する姿勢から学ぶ。世にあつて真逆の力と戦わなくてはならないとき、その友の存在を思い出すことができるでしょう。

最後の三つは金銭的な誠実さについての教えです。

① 不利益な誓いでも翻しはしない

誰かと約束したことが後で自分の首を絞めるということがあります。しかし、損得勘定だけでは成り立たないのが人間関係というもの。「あの苦しい時にも約束を守ってくれた」という思いが生涯に亘る信頼関係を構築することもあるでしょう。この教えは、私たちの人生における選択の助けとなります。人との誓いを守ることは、神との関係の中で果たされるべきものであることが教えられているのです。

② 利息を取って金を貸さず

ユダヤ人は今に至るまで「金貸し」によって栄えてきた面がありますが、このような聖句を読むと、誰かを経済的に陥れるような貸し方は禁じられていたことが分かります。厳密に言いますと、同胞に対する利息は律法によって禁じられていましたが（申命 23:20-21）、外国への貸付けは商売として行なわれることが是とされていたのです。しかし、これもまた両者に利益がもたらされるということが前提での話であって、一方がガッポリ儲けることを主が願っておられたわけではありません。

③ 賄賂を取って罪なき人を苦しめない

最後の戒めは「賄賂」です。主が忌み嫌われることは、金の力によって裁判が曲げられること。それによって真実が歪められ、歴史が変えられてしまうことに主は耐えられません。しかし、現実世界はどれほど金の力によって動かされ、貧しい者が虐げられているでしょうか。礼拝者は真実を行ない真実を見極めることが求められているのです。

以上、礼拝者が持つべき資質を学んでまいりました。私たちの生き方一つひとつが問われている箇所であります。今日の箇所全体を振り返ってみるときに、思い浮かぶ聖句がありました。

何をもって主にまみえ、いと高き神にぬかずくべきか。焼き尽くすいけにえか、一歳の子牛か。果たして、主は幾千の雄羊、幾万のしたたる油を喜ばれるだろうか。私は自らの背きの罪のために長子を、自らの罪のために、胎から生まれた子を献げるべきか。人よ、何が善であるのか。そして、主は何をあなたに求めておられるか。それは公正を行い、慈しみを愛しへりくだって、あなたの神と共に歩むことである。(ミカ 6:6-8)

礼拝には何も持たずに参加してはならないということが出 23:15 で教えられていました。そこで、民は献げ物を用意して礼拝に赴いたのですが、非常に多くのいけにえをもってしても真に神を喜ばせることができなかつたのです。主が民に求めておられたのは、それに先立つ誠実な生き方であって、人が神の御前にどのように歩んでいるかということこそが問われていました。私たちは表面的なところをある程度整えることはできますが、それが見えない部分と一致していることが大切です。そのことを常に自分の心に問い、首尾一貫した生き方ができるよう聖霊の助けを求めていきたい。今日の箇所で教えられていた諸々のことは「指標」であって、これで全部ということではありません。原則として心に書き記し、自分の生活の隅々にまで落とし込んでいく必要があるのです。

これを行う人はとこしえに揺らぐことがない。(15:5b)

主の御前における「心、ことば、行動」の一致を目指していくとき、私たちの人生はまことに「揺らぐことがない」ものとなるでしょう。

2023 年を歩み始めるに当たって、心に留めるべき御言葉が示されました。神と人との御前における誠実な生き方ができるよう、祈りつつ進んでまいりましょう。律法的になるのではなく、信仰に生きる時そのような心が与えられていくということを忘れないようにしたい。如何なる状況になったとしても、私たちの真実をもって毎週の礼拝に赴きたいと思えます。

【祈り】

誠実を愛される天の父なる神様。新しい年、2023 年が始まりました。この日を礼拝で始められることを感謝いたします。私たちが心に留めるべき原則が示されました。願わくば、一人ひとりが神と人に対する誠実な生き方を貫くことができますように。心の内面に潜む偽りが取り去られ、どこを取っても光として輝くことができますように。それでこそ、礼拝者として全き心であなたの御前に出られます。これから歩み出す日々が、あなたのご支配の下に導かれていきますように。

【祝祷】

仰ぎ願わくは、
ことばと行為との間に完全なる一致をもって、世界と関わり給う、父なる神の愛、
真実・全き心をもて、神と人々に仕え給う、主イエス・キリストの恵み、
主の人格をこの心に接木し、光としての人生を歩ませ給う、聖霊の親しき交わりが、
あなたがた一同の上に、限りなくあらんことを。